「旧いアルバム」より～

『取手工場建設激励バーベキュー大会』

「生産量も増加してきて従来の芝浦工場だけでは、どうしても狭隘にならざるを得ない。更に将来の発展を考えると、できるだけ広い土地を求めて新工場を建設する必要があるという当時専務取締役であった山手研吾（後に社長）の発議から、適当なる敷地を求めていたところ、茨城県北相馬郡取手町（現取手市）大字下高井の約11万4,000㎡の土地に白羽の矢を立て、ここを購入した。（東京鐵骨橋梁製作所「56年史」より）

1962年（昭和37年）8月、取手工場建設に着手しました。
9月21日、取手工場を造るにあたって建設事務所の場所を決め、現地に乗り込みました。

取手工場のすべてはここから始まった…。

この手前側の2階建ての建物が「取手工場建設事務所」です。

『工場建設には大変な苦労がつき物です。例えば“水”ひとつにしましても、井戸を掘れば“水”は出ます。しかし、人が飲用出来るかは別です。付近の農家が数百年飲用してきたこととは別です。保険所の[飲用適]の証書を受け取るのに、専門家の意見を伺い、設備の更新等にかなりの月日が必要でした(鉄分が多いため)。さらに排水についても、地元の長老をまじえての話し合いに時間がかかりました。』

(取手工場建設メンバーの一人であった故・川口良治氏の手紙より)

以下に掲載した写真には、瀧上さん、高野さん、姫田さん、稲沢さん、松岡さん、そして、そのご家族の姿が写っています。
その他にも、ご存じの方はいらっしゃるでしょうか？

1963年（昭和37年）9月末、「取手工場建設激励バーベキュー大会」が実施されました。

当時の本社/芝浦工場の勤務者とその家族44名が駆け付けました。
娯楽が少ない頃でもあり、案外と大きなイベントとなったようです。
ただ、まだまだ日本の食糧事情は貧しく、焼いているのは鶏肉とさつまいも。
でも、皆さん、とても楽しに生き生きとしています。

取手工場が完全に出来上がったのは、昭和47年のことであった。次第に大きく成長しながら、工事を消化していった。（「70年史」歴史編より）

天地無用

取手工場の最初の一部分が完成し、生産を開始。といっても、最初は取手工場そのものを建てるための鉄骨づくりであった。(「70年史」より)